

令和4年度の取り組みを紹介していますので、応募を検討されるにあたり、参考にしてください。

長崎市での平和学習

戦争の悲惨さ、平和の尊さを若い世代に伝えるために

令和4年度 北九州市 青少年ピースフォーラム派遣団

北九州市では、平成22年2月10日に「北九州市非核平和都市宣言」を行い、平和な世界の実現に向け努力することを宣言し、長崎に投下された原爆の第一目標が小倉であった経緯を踏まえ、長崎市との平和を通じた交流をはじめ、戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるための様々な取り組みを行っています。

その取り組みの一つ、小中高生を長崎市に派遣し、全国子どもたちと交流する「青少年ピースフォーラム」派遣事業について、令和5年度も実施予定です。



平和公園 平和祈念像前

令和4年度 北九州市青少年ピースフォーラム派遣団 (敬称略、学校名・学年は当時のもの)

学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名	学校名	学年	氏名
附属小倉小学校	5	白木原 茉桜	附属小倉中学校	1	大久保 信青	小倉東高校	2	赤木 かえで
引野小学校	5	日高 怜香	沼中学校	1	原田 真優	九州国際大学付属高校	2	小茅 美晴
明治学園小学校	5	藤山 功大	熊西中学校	1	藤崎 結菜	小倉東高校	2	原田 千優
足原小学校	6	鵜殿 楓	篠崎中学校	2	小田 泰次郎	敬愛高校	2	若杉 陽菜
星ヶ丘小学校	6	栗原 璃々花	附属小倉中学校	2	仁木 大和	敬愛高校	3	川久保 珠莉亜
敬愛小学校	6	高岩 恭子	花尾中学校	2	松田 芽依	北九州市立高校	3	松本 三菜美
高須中学校	1	大石 碧唯	門司学園高校	1	新田 美空			

計 20名(男 4名、女 16名)、引率者 5名

1日目 8月8日(月) 長崎市内 城山小学校の見学

爆心地から約 500m の場所にあり、原爆により多くの犠牲者が出た長崎市内 城山小学校を見学しました。

北九州市の小・中学校などで植樹されている「嘉代子桜・親子桜」に繋がる「嘉代子桜」や、「被爆校舎(城山小学校平和祈念館)」を見学しました。

被爆直後の生々しい学校の状況を、みな真剣な表情で見学していました。



長崎市内 城山小学校の見学

多くの児童が亡くなった被爆校舎を真剣な表情で見学しています。

1日目 8月8日(月) ピースフォーラム開会式、被爆体験講話

全国 28 都市、約 255 名の小・中学生、高校生等が集まり、開会式が行われました。地元大学生などを中心とした「青少年ピースボランティア」による開会宣言の後、山田一美さんによる被爆体験講話がありました。

昭和 20 年 8 月 9 日、当時 12 歳だった山田さんは、爆心地より 2.3km で被爆、突如、真夏の太陽より明るい閃光に包まれ、ものすごい熱さに死を覚悟しました…。つらい体験を乗り越えて、当時の様子を語ってくださった山田さんの姿が、私たちの心に強く刻まれました。



山田 一美さんによる被爆体験講話

原爆のつらい体験を乗り越え、当時の様子を語っていただきました。

2日目 8月9日（火） 長崎原爆資料館の見学

長崎原爆資料館では、目を覆いたくなるような写真や資料が数多く展示されていました。原爆投下までの経緯や、戦後の核兵器開発などの歴史を学び、核兵器の恐ろしさを感じながら熱心に見学しました。



長崎原爆資料の見学

数多くの目を覆いたくなるような写真や資料を熱心に見学しました。

2日目 8月9日（火） ピースフォーラム平和学習（意見交換）

それぞれ別の自治体の子どもたちとグループに分かれて、「青少年ピースボランティア」の進行のもと、「ケンカ・戦争の原因はなんだろう?」、「ケンカ・戦争をなくすにはどうしたらいいか?」などのテーマで、活発に意見を交わしました。積極的にたくさん意見を言えた本市団員の姿も見受けられました。

最後は、「My 平和宣言 一私たちにできること」色紙に書き、みんなでグループのボードに纏めました。



平和学習

全国の参加者と一緒に、それぞれの考えを述べて意見交換しました。



◆ その他の活動（事前・事後の活動）

- 7月31日（日）の**事前研修会・保護者説明会**では、事業の目的、派遣行程の説明のほか、平和のまちミュージアムの見学、北九州市の歴史や平和の取り組み、長崎との関りなどについて学習したあと、各班に分かれて今回の派遣で学びたいことなどを発表しました。
- 8月22日（月）の**市長（事後）報告会**では、活動で感じたことや学んだことを、北橋市長に一人一人から報告しました。その後、保護者の方々も一緒にスクリーンで写真を見ながら、長崎市での2日間を振り返り、感想を述べあいました。



事前研修会



市長報告会



北橋市長と記念撮影

◆ 参加者・保護者の声

今回の活動を通して、戦争ほどたくさんの方が悲しむことはないと感じました。ふだんから人に優しく、戦争は怖くて悲しいものだというのを周りの友達に伝えていきたいと思います。そして、争いのない世界であってほしいと強く願います。（小学5年生）

私は戦争や長崎での被害を全部理解したわけではありません。でも、今年の夏休みに私が過ごした長崎での2日間は、とても大きくて大切なことでした。これから先も戦争と平和について向き合う時間を作ることを心がけていきたいです。（中学1年生）

被爆者の生の声を聞いたり、同世代の子たちと思いや意見を交わすことで戦争に対する視野が広がったなど帰宅した子供の話を聞いて感じました。写真や現場で見たリアルな戦争の傷に触れることで、怖さ、悲しみといった感情を強く持ったようです。（中学1年生 保護者）